

## 今年も中津干潟調査隊

またまた



### 夏だ！干潟だ！大調査！

梅雨の気配がまったくなく中津の干潟に、大潮のたびに出没する人影。手に手に網やらスコップを持ってなにより掘っているらしい。「ゴカイほりですか？」と声をかけたリポーターの問いかけにふりむいてくれたのはMさん(小楠校区在住)。日除け付きの麦わら帽子に長袖長ズボン、日焼け止め、真つ白な顔がマブシイ。「あーっ、生きもの掘ってるんですよ。ただいま干潟の生物の調査中なんです。ここってね、何でも珍しい生きものが埋まっているんです。ま、ちょっとキモチ悪いけど、宝物探してるってカンジかしらねえ。」なるほどそういえば、工事現場で遺跡発掘している方々とよく似ていらっしやる。納得。

このアヤシゲな調査隊の正体は「水辺に遊ぶ会」の中津干潟生物調査隊の一行。物好きな(失礼失礼)面々が、郷土の海の魅力を語るべく、オモロシギな生物たちの発掘を行っているモヨウ。生きものにさわれば誰でも大歓迎！というところなので、興味のある方は「一報あれ、ちなみにこれからのシーズンは、おサカナ博士やカブトガニ博士などにおともする調査活動なども予定されている。ただし、おともで大活躍しても、吉備団子はもらえないので、注意を。」

- #### ■水辺に遊ぶ会の活動報告
- (2002.3.1~2002.6.30)
- 2002.3.1 豊田小学校総合学習打合せ
  - 2002.3.2~3 九州環境教育ミーティング in諫早 参加
  - 2002.3.8 豊前市三毛門小学校総合学習 ゲストティーチャー 中津市豊田小学校総合学習 三百間干潟観察会
  - 2002.3.17 松本英揮講演会・環境展参加
  - 2002.3.20 龍谷高校ボランティア打合せ
  - 2002.3.24 大新田地区(舞手川河口付近) 環境整備協議会参加
  - 2002.3.27 福岡市にカブトガニ保護の視察(中津市生活環境課)
  - 2002.4.11 O B S ラジオ出演
  - 2002.4.21 環瀬戸内海会議シンポ参加
  - 2002.4.27 干潟の日2002干潟観察会
  - 2002.5.11 干潟調査準備
  - 2002.5.12 市民による中津干潟調査
  - 2002.5.13 海岸保全基本計画作成に 関するヒアリング(大分県)
  - 2002.5.25 干潟調査準備
  - 2002.5.26 市民による中津干潟調査 舞手川河口環境調査
  - 2002.5.27 環境省干潟調査同行
  - 2002.5.31 北部小学校総合学習打合せ
  - 2002.6.6 土木学会海洋開発シンポ参加
  - 2002.6.7 佐々木氏中津干潟視察同行
  - 2002.6.8 舞手川河口調査同行
  - 2002.6.9 市民による中津干潟調査
  - 2002.6.11 中津市北部鳥学校総合学習 三百間干潟観察会
  - 2002.6.22 干潟調査準備
  - 2002.6.23 市民による中津干潟調査

「ガタガタ通信」次回は  
2002年初秋発行だよ!!

おによりイラスト  
編集お助け人募集中

中国、廈門(アモイ)からの留学生が新田の浜に遊びに来ました。海辺が懐かしいと長靴でどこまでも歩いていました。(あ)

■干潟を歩くのは何キロでも平気。でも、山は疲れた。体力のオトロ工をひしひしと感じるこの頃。海で体力増進ヨ!!(う)

### 活動 あ・れ・こ・れ

#### 大新田ビーチクリーン

7月7日(日) 小雨決行 大雨中止  
PM12:00~2:00

場所:大新田(セブンイレブンさん奥)  
持ち物:作業のできる服装  
★ビニール袋は用意します。  
★当日「漂着物調査」も行います。  
興味のある方はご参加ください。  
連絡先:0979-22-5820(安倍)

#### 夏休み干潟観察会

7月21日(日)  
AM10:00~PM1:00

集合:東浜(喫茶シーサイドさん横)  
参加費:大人200円・高校生以下100円  
持ち物:長靴・汚れてもよい服装  
着替え・タオル・帽子・水筒  
バケツ・スコップ など  
連絡先:0979-23-5320(足利)  
雨天★22日/AM11:00~PM1:00

2002年  
ビーチクリーンの予定  
9月16日/12月15日

### 干潟ボランティア

さがしてます!!

### 干潟調査現在進行中

アカテガニの産卵観察会!  
8月24日に計画!!

2001年度干潟調査報告書が  
近日中にできあがります!!  
ご希望の方は事務局まで。  
(報告書は有料となります)

今年の初夏はアオギスがたくさん釣れてるよ!!  
情報提供ありがとうございます。  
KIYOSHIさん&岡防難サーフ・松尾さん

### 会員募集中!

年会費1000円  
事務局まで  
お問い合わせ下さい。

水辺に来てくださったお客様

ホームページのアドレスが変わりました。

ご意見・ご感想など、みなさまの声をお待ちしております。  
URL:<http://ww61.tiki.ne.jp/~ashikaga/>  
e-mail adress:ashikaga@mx61.tiki.ne.jp

「椰子の実」とか「手紙入り小瓶」などが代表的漂着物として想像されるが、今や海辺に無いモノは無いと豪語してしまおう。長洲地区の精霊舟からスロットマシン、誤って落とした免許証、便器から「支那事変記念」の文字入り陶器まで世の中の変化を忠実に反映しているのは陸のゴミに限ったものではない。

最近拾ったモノでは是非紹介したいものがある。一つ目は**ナンと仏様の座像**である。これは龍谷高校の女子生徒さんがビーチクリーンの作業中に見つけたものだが、海辺でのあまりに意外な出会いにわざわざ届けに来てくれたのだ。担当の先生にお知らせすると「まあ、こんなところで・・・！」と絶句思わず両手をあわせたのは私だけではなかった。その後この仏様は先生がお引き取り下さった。



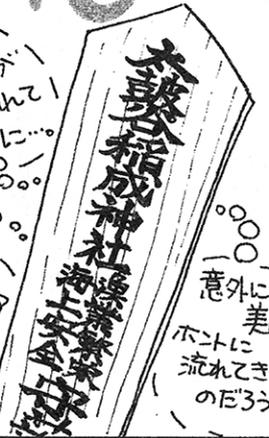
大きさは手のひらサイズ  
この仏様に関する情報を求めています。お心当りの方にお知らせください。ぜひ!!



# 名も知らぬ何処の土地より、流れよる漂着物の数々。ハア〜どんぶらこ〜どんぶらこ。

海辺にうち寄せられたモノたちをただのゴミだと見下げてしまつては勿体ない。時には思ひかけない出会いもあるのだ。

二つ目は「太鼓谷稲成神社漁業繁栄海上安全守護」と書かれたお札である。実は大新田の沿岸の海流は中津港に向かって流れているため、その昔中津港から投げ捨てられたお札が、新田に流れ着いたという話もある。この漂着物は何故大新田にたどり着いたのかと想像たくましくした私は、キーワード「太鼓谷」を手がかりに早速インターネットで検索したのであった。



このお札を保持していた方が、父難に遭われていまして、拾ったのは、調査ボランティア、日本文壇大賞、ワイルドイフクラブの学生さん

## 出身地は島根県津和野町。

ワクワクしながら電話してこのお札は何故中津までやってきたのでしょうか？と尋ねながら内心なんてバカな質問をしているのだと気がつく。いくら神社だつてそんなことが分かるうハズがないのだ。神社の方と相談していくうちに、本来であれば船の中の神棚にお供えしているはずのお札だが、何らかの理由で海に投げ出されたのでしようという結論に達した。ちなみにこの太鼓谷神社は日本五大稲荷に数えられ、千本鳥居（赤い鳥居がトンネル状に山肌を彩る）が鮮やかで、内田康夫というミステリー作家の『津和野殺人事件』でも取り上げられているとか。海流から考えると、瀬戸内海から周防灘という経路で旅してきた貴重な証拠品。海は人々を閉じこめるのではなく、繋ぐものでもある。

アッシー先生のインスタント古典講座  
●安倍元麻呂(あべのみとも)も生没年不詳。豊前国下毛郡出身。遣唐留学生で唐の朝廷に仕えた文人的官僚。遣唐使に從い入唐。大学に学び、科学に合格。左春坊司録局の校書に任官、左拾遺、左補闕を歴任。帰国を願ったが許されず、秘書監衛尉卿などを経た。後に帰国を許され、遣唐使一行と帰途についたが、暴風のため膨大な海のゴミとともにミッドウエーに漂着。一生を終える。「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 山崎の原の峰に いでし月かも」の名歌で知られる。

モットー ホットですか? のいけ

★アッシー先生の近況★干潟にたくさんいるマメコブシガコと北陸土産にももらったスワイガにの形が、とっても似ていることが気になって地質学どころではないのだ。

漂着物を極めたい人にオススメ!の本たち。

『漂着物事典』  
海鳥社：刊 石井忠・著  
●知る人ぞ知る漂着物収集の第一人者の著作。石井さんは古賀市立歴史博物館の館長さん。

浜辺のコレクション  
フレーベル館：刊  
浜口哲一：著  
●博物学的エッセンスをちりばめた子ども向け絵本。

私の大新田時代 (その二)  
私どもの通学路は、家から新田の西へ、新田→旧十号線→一ツ松という順路で今の新田までは西側は山、暗い坂道で何時もじめじめと湿ってぬかるみ、子供にとっては怖くて一人では通れないような道だった。十号線の坂を登りきった所に二軒三軒の民家と医院があり、日豊線の踏切りあたりは全部田んぼ、新田の中に入るまで一軒も民家はなく本当に淋しい道だった。新田の西から十号線に出ても大きい坂があり、帰りには上がり坂、フーフー云々のものだった。

学校から帰りは、たまに自見を通って東浜→新田、この道を通ると自見の悪童どもが途中待ち伏せて追いかけてくるので、怖かった。それに東浜と新田の間には今のような家も工場もなく、ただ墓場だけがある淋しい道でめったに通らず、帰りも踏矢堂経由が殆どだった。夏の帰りは踏矢堂の坂を上った右側に少し入った所に、冷たい清水の湧き井戸があり皆よく飲んで元気をだして帰ったものです。

学校を出てしばらく歩いた頃、運よく空の荷馬車が通りかかると、我先にと車の端に乗せてもらい踏矢堂の坂を歩かずにすむのが何よりだった。中には親切な小父さんがわざわざ車を止めて皆を乗せて下さる事もあって有り難かった。踏矢堂から学校まで途中大きい倉庫と一軒二軒民家があるだけで、左右一面田んぼだった。荷物の運搬は荷馬車以外は何もない時代で道路はのんびりしたものだったと思う。

ツインデコトクで食べたいモノ  
今回の情報提供は、アヤシクイのHIROFUMISANです。  
このキャラどくりの巻貝をお酒と塩を漬けたものらしい。ちなみにこの貝は、初夏の干貝?とあるらしいが、ほかの季節は食べられない!!  
かにつけ  
ち葉集に歌われ、飛鳥時代には宮中で食べられていた古い由来の食べもの。シマネキを甲羅ごと塩漬けした珍味。旨い。食べたければ、佐賀に行きましょう。  
イラストから推察するに、材料のカニは、シマネキらしい!!